

コンピュータの音声支援機能には、画面情報を音声ガイドするものと、音声入力により操作を支援するものがあります。

1 音声ガイド

「スクリーンリーダー」と呼ばれています。

画面上に表示されているテキストを取得し、音声合成技術を使って音声に変換したり、キーボードやタッチパッドを使った操作を支援したりします。

コンピュータの設定メニュー、Web ブラウザ、Word、Excel などの対応しているアプリケーションを音声ガイドします。

○スクリーンリーダーのユーザー

スクリーンリーダーは視覚障害者だけでなく、ディスレクシア（読字障害）などの学習障害の方が利用しています。PCではありませんが、電話の操作が困難な高齢者の中には、音声サポートのある携帯電話を使う方もいらっしゃいます。

また、ハンディキャップの有無に関わらず、料理中にコンピュータを利用するなどのマルチタスクを効率化したい方も利用されています。

○パソコン用のソフト

- ・NVDA：無料で利用できるオープンソースのスクリーンリーダーです。
- ・ナレーター：Windows に標準搭載されているスクリーンリーダーです。
- ・PC-Talker：日本語対応の有料スクリーンリーダーでシェアナンバーワンです。
- ・JAWS：プログラミング指定することでほとんどの画面表示テキストを読み上げるエキスパート用ソフトです。

○スマホ用のアプリ

- ・VoiceOver：iOS に標準搭載されているスクリーンリーダーです。
- ・TalkBack for Android：Android に標準搭載されているスクリーンリーダーです。

注：JPG ファイルや画像だけの PDF ファイルの文字は、テキストではないので、スクリーンリーダー単独では音声ガイドできません。これを音声ガイドするには OCR という画像から文字を抽出し、認識するソフトが必要です。

注：クロームなどのモダンブラウザは、OCR 機能やスクリーンリーダー機能が搭載されているので多くのグラフィック文字も音声ガイドされます。

2 音声入力機能

最近のスマホやPCにははじめから搭載されています。音声をテキスト化します。スマホ検索でもおなじみです。

最近、AI 機能の向上に伴い、かなり精度の高い変換が行えるようになってきています。キーボードやタッチ操作が苦手な方々には有用です。

音声をテキストに変換・表示することで、聴覚に支障のある方々も日常会話や字幕や手話通訳のないテレビや動画をリアルタイムで楽しめる日がくるでしょう。現に会議記録を音声認識機能で取っている企業もあるそうです。